

新時代の医療 2020

化学療法を中心とするがんの治療

病・診連携でがん治療の可能性を広げる

化学療法の効果을最大化する
「あきらめない」がん治療

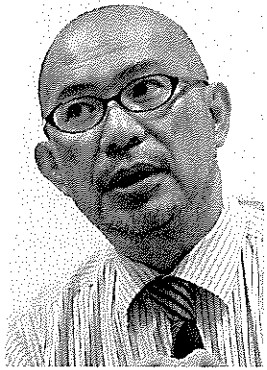
がん治療は、技術の進歩、新薬の開発などによって飛躍的な改善を見せている。がんの最新治療はさまざまあるが、化学療法を中心に治療実績を上げていくクリニックが福岡にある。医学的な論拠を武器に、地域のがん医療に貢献しているふじ養生クリニック福岡の藤本勝洋院長に話を聞いた。

「あきらめない治療」は「薬理」から生まれる

ふじ養生クリニック福岡には、全国からさまざまな病状、病態のがん患者が訪れる。そのほとんどは「治療法がない」とがんと戦いをあきらめかけていた患者たち。

「生きたいという希望のある方は、がんに対してあきらめる必要はありません」

化学療法に精通した藤本院長が提供する「薬理」に基づきその可能性を追求した医学的に根拠のある治療法だ。



院長 藤本 勝洋 (ふじもと かつなだ)
1992年 福岡大学医学部医学科卒業後、同大学病院第2内科勤務。94年より名古屋市立大学大学院医学研究科にて免疫学の研究に従事。99年より福岡大学病院第4内科勤務。2005年より民間医療機関にて化学療法、免疫療法担当。2008年より福岡大学医学部非常勤講師。2012年ふじ養生クリニック福岡開設。現在 ふじ養生クリニック福岡院長。福岡大学医学部非常勤講師。

「薬の効き目を引き出すために、薬と生体の相互作用、薬理」を有利に引き出す。免疫を活性化する免疫賦活剤や血管新生阻害剤などを併用することで、治療効果を上げることができるようです」

がんのメカニズムの解明が進み、分子標的薬をはじめ抗がん剤が進歩している。薬理学に基づき、それぞれの薬が体の中でどのように影響し合うのかを考慮して投与することができれば、がん細胞の住みにくい環境を作り出しつつ、成長を妨げながら攻撃するという攻防体のがん治療が可能になる。

低用量で効果のある副作用の少ないがん治療

薬理に基づいた治療は、それぞれの薬の使用量を少なく抑えることができる。当然、抗がん剤治療の大敵、副作用を抑えることにもつながる。

「標準治療では望む効果を得られなかった患者様にも副作用を抑えつつ、積極的な治療が行えることが何より大きい」

薬の効果、機序を十分に調べた上で用量を調整していけば、副作用がほとんどない状態での治療も可能になる。さらに同クリニックでは、医学的・臨床的根拠に基づいた、免疫活性、ビタミンC療法、漢方についても、相互の薬理作用を見極めた上で提供している。

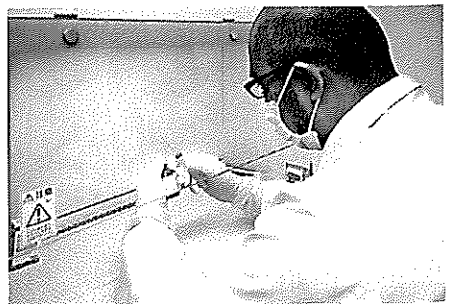
治療の可能性を広げる
充実の病・診連携

「あきらめない」のは患者のためだけでなくあるから。同クリニックでは、ゲノム医療に関するパネル検査、リキッドパ

イオプシーなどの最新の遺伝子検査の相談にも、大学病院やがん拠点病院との連携で対応している。

「すべての可能性を探ります。すべてをこのクリニックでやる必要はありません。専門分野は任せつつ、相互連携しながら私たちにしかできないことをやっていく。そうすることで可能な限りの治療に対応するようになっています」

遺伝子変異を調べる検査は専門の施設、その評価をするドクターを揃えるがん拠点病院に任せる。任せるだけでなく、大学病院から依頼を受けて実際の治療を行うことも少なくない。藤本院長の言う「対応」は、大学病院をはじめとするがん拠点病院との信頼関係、これまでの実績があつて初めて成立する。同クリニックが大学病院、がんセンターなどクリニックとしては異例なほど多くの医療機関と連携しているのは、藤本院長、そしてクリニックの



クの治療実績に依るところが大きい。ふじ養生クリニック福岡は、福岡、九州、そして全国の「あきらめない」がん患者の希望の光として今日も未来を照らしている。

ふじ養生クリニック福岡

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3-7-34
第2博多クリエイトビル3階
博多駅より徒歩7分
TEL 092-409-1345
【予約受付】
月・火・木・金・土曜日
10:00～18:00

